

アセンブリ教育実施要領



アセンブリ教育センター長
大槻 眞嗣

アセンブリ (Assembly) は建学以来続いている全学的教育活動であり、師弟同行、全員集合を意味しています。現在、**多職種連携教育 (Interprofessional Education)** (図1) としてのアセンブリ教育と位置付けています。

アセンブリ教育において、最も大切なのは「**他者へのリスペクト (尊重)**」です！

多職種連携に必要な能力として「**コミュニケーション**」(1 学年～)、「**チームワーク**」(2 学年～)、「**患者・(施設の)利用者・家族・コミュニティ中心の考え方**」(3 学年～)を段階的、系統的に身につけます(図1、表1)。希望する学生(最終学年)は、**保健医療福祉の現場における多職種連携(協働の実践)**を学びます(図1、表1)。

藤田学園は社会貢献を大切にしており、アセンブリ教育は、**防災をとり入れた多職種連携教育**へと発展しています。2023 年度より本学の方針として全学生の防災士養成研修会受講が義務化され、研修会受講の修了がアセンブリⅡの単位取得条件となりました。

また、アセンブリⅠとⅡの一部で、**発災初期に必要な知識や避難所運営**を学ぶ演習(アセンブリ防災)を行います。テーマは、アセンブリ防災Ⅱを「**避難所における貢献**」、アセンブリ防災Ⅲは「**被災住民の支援**」としています。

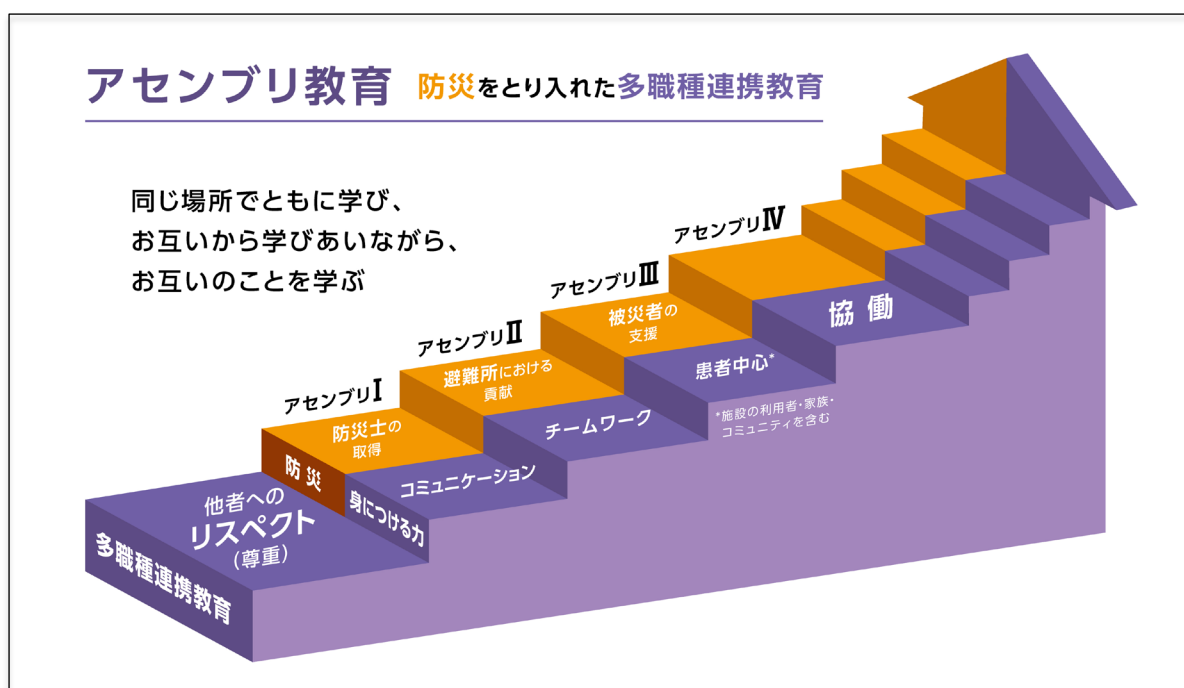


図1. アセンブリ教育

【多職種連携の基盤造り】					
基本姿勢					
他者の尊重（リスペクト）					
1	コミュニケーション	アセンブリⅠ	アセンブリⅡ	アセンブリⅢ	アセンブリⅣ
	a. コミュニケーションスキル（傾聴、質問等）を理解し、使用することができる。	◎	○	○	○
	b. 相手を尊重したコミュニケーションを取ることができる。	◎	○	○	○
	c. 自己の言動もたらす他者への影響を省察することができる。	◎	◎	○	○
	d. チーム内で他者を尊重したコミュニケーションを取ることができる。		◎	○	○
	e. 他職種を尊重し、職種間でコミュニケーションを取ることができる。			◎	○
	f. 患者・利用者・家族・コミュニティを尊重したコミュニケーションを取ることができる。				◎
2	チームワーク		アセンブリⅡ	アセンブリⅢ	アセンブリⅣ
	a. チームメンバーの関係性の構築・維持・成長に貢献することができる。		◎	○	○
	b. チームで解決すべき課題を見出すことができる。		◎	○	○
	c. 見出した課題に対する改善・解決策を提案することができる。		◎	○	○
	d. 自己とチーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。		◎	○	○
3	患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方		アセンブリⅡ	アセンブリⅢ	アセンブリⅣ
	a. 患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。		○	◎	◎
	b. チームで協力して課題に取り組み、改善・解決策を提案することができる。		◎	◎	○
	c. チーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。			◎	○
4	職種の理解			アセンブリⅢ	アセンブリⅣ
	a. 自職種の役割を他職種および医療・福祉系学部の学生に説明できる。		○	◎	○
	b. 患者・利用者・家族・コミュニティに関わる他職種の役割を理解することができる。		○	◎	◎
【保健・医療・福祉の現場における多職種連携（協働）の実践】					
5	多職種連携（協働）の実践				アセンブリⅣ
	a. 保健・医療・福祉の現場（以下、現場）において、患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。				◎
	b. 現場において、他職種の役割を理解することができる。				◎
	c. 現場において、多職種との関係性の中で自職種の役割を果たすことができる。				◎
	d. 現場において、協働する職種間で信頼関係を構築することができる。				◎
	e. 現場において、職種間のコミュニケーションを取り、チームワークを発揮できる。				◎
	f. 現場において、他の医療・福祉系学部の学生と共に学び、省察することができる。				◎

◎ …核となる到達目標、 ○ …関連目標

表1. アセンブリ教育における到達目標

1. アセンブリ教育

アセンブリ教育は保健医療福祉における**多職種連携教育**（Interprofessional Education）である。身につける力、概要等については、アセンブリ教育要綱（別紙）に記載されている。人文・社会科学（人間性の涵養）および自然科学（医学・医療）の両者の要素を含む。

2. 単位認定と卒業要件

アセンブリ教育は、建学の理念に基づいて実施される全学的教育活動である。2022年度以降の入学者を対象として、アセンブリⅠ（Interprofessional EducationⅠ）、アセンブリⅡ（Interprofessional EducationⅡ）及びアセンブリⅢ（Interprofessional EducationⅢ）は1単位（必修）、アセンブリⅣ（Interprofessional EducationⅣ）は1単位（選択）とする。また、アセンブリⅣは希望者のみを対象とした選択科目とする。

※注意事項

防災士養成研修会の受講を修了していない場合、アセンブリⅡの単位が取得出来ない。

3. 休講及び補講

休講については、アセンブリ教育センターから通知する。但し、天候不良等に伴い、突発的に休講となる場合については、アセンブリⅠ～Ⅳ、およびアセンブリ防災担当の副センター長の判断で緊急連絡する場合がある。補講については、アセンブリ教育センターで検討・審議のうえ決定する。

4. 担当教員

専任教員はアセンブリⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、戦略企画、アセンブリ防災の何れかに所属し、アセンブリ教育活動を支援する。但し、診療などに支障が出る場合はこの限りではない。

5. 概要

I) アセンブリⅠ（Interprofessional EducationⅠ）

1年次に行うアセンブリ教育活動である。グループワークを中心とした体験学習の活動により、「コミュニケーション」を学ぶ。

<アセンブリⅠで身につける力>

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「コミュニケーション」

- ・コミュニケーションスキル（傾聴、質問等）を理解し、使用することができる。
- ・相手を尊重したコミュニケーションを取ることができる。
- ・自己の言動がもたらす他者への影響を省察することができる。

<活動方法>

1) 活動内容

①講演会

- ・アセンブリ講演会（医療と献体。特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

②講習

- ・グループワークを通して「他者をリスペクトする」「傾聴する」「質問する」というコミュニケーションの基本を学ぶ体験学習。
- ・2年次以降のアセンブリ活動に向け、チーム作り・チームでの活動の基本について体験する。

2) 実施方法

①授業形態

- ・「自分を知る」「他者を知る」「見る」「聴く」「質問する」「チームを作る」等をテーマとしたグループワーク中心の体験学習を行う。
- ・学生はファシリテーター（教員）の指示により、6 から 7 名の小グループに分かれてワークを実施する。
- ・ワークにおいて自身や他者がとった行動や言動、感じたことなどについて、振り返りを行う。
- ・振り返りの内容について、グループ内もしくはチーム内で共有する。
- ・2年次のアセンブリⅡで「チームワーク」を身につけるための基盤となる「コミュニケーション」を身につける。

②活動時間

- ・活動時間は毎週月曜日3・4限（医学部においては5・6・7限の午後4時10分まで）とする。

<評価法>

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

講習および講演会の提出課題中の記述から、各回テーマごとに定めたスキルについての自己・他者への言動に関する省察の深さを評価する（80%）。

グループワークのメンバー相互および教室担当のサポート教員によるグループワークの観察から、各学生の積極性や貢献度、コミュニケーションに見られる他者への尊重の度合いを評価する（20%）。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・アセンブリⅠ（Interprofessional EducationⅠ）は1単位の単位認定された授業である。他学科混成の小グループ学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。
- ・アセンブリⅠは1年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- ・原則として全ての活動（オリエンテーション、アセンブリ講演会、発表会、アセンブリⅡの活動報告会を含む）への出席及び課題提出を以て評価の対象とする。欠席や未提出課題等がある場合は補講・追加課題を課すことにより評価の対象とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

※注意事項

防災士養成研修会の受講を修了していない場合、アセンブリⅡの単位が取得できない。

但し、防災士養成研修会に参加する機会は、2学年には無く、1学年の指定された日時（学科別）に限定されるので、必ず、指定された日時の講習会に出席すること。

Ⅱ) アセンブリⅡ（Interprofessional EducationⅡ）

2年次に行うアセンブリ教育活動である。チームとして明確な目標を定め、チームのために行動する。「コミュニケーション」を大切にして、「チームワーク」を学ぶ。コンテンツとして「避難所における貢献—災害時における社会貢献として—」に取り組む。

<アセンブリⅡで身につける力>

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「チームワーク」

- ・自己の言動がもたらす他者への影響を省察することができる。
- ・チーム内で他者を尊重したコミュニケーションを取ることができる。
- ・チームメンバーの関係性の構築・維持・成長に貢献することができる。
- ・チームで解決すべき課題を見出すことができる。
- ・見出した課題に対する改善・解決策を提案することができる。
- ・自己とチーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。
- ・チームで協力して課題に取り組み、改善・解決策を提案することができる。

<活動方法>

1) 活動内容

①講演会

- ・アセンブリ講演会（特別講演が追加される場合がある。）
- ・その他（全体オリエンテーション、アセンブリⅡ活動報告会）

②活動

- ・グループワークを通して「他者をリスペクトする」「傾聴する」「質問する」というコミュニケーションの基本を土台としたチームワークを学ぶ体験学習。

2) 実施方法

①チーム

- ・複数の学部・学科の学生が所属する混成チームを作る。
- ・各チームには担当教員を置き、担当教員はチーム活動のプロセスの支援を行う。所属学生はリーダー、サブリーダー、記録など何らかの役割を担う。
- ・チーム編成は複数の学部・学科混成となるようアセンブリ教育センターが決定する。

②活動など

- ・活動時間は原則として毎週月曜日4限（医学部においては6限・7限の午後4時10分まで）とする。
- ・活動は基本的にチーム単位で行い、前・後期ともに数回の全体活動を実施することで、チーム活動の振り返りを確実にし、以降のチーム活動へ繋いでいく。
- ・「避難所における貢献―災害時における社会貢献として―」についてチームで意見を出し合い、合意をしてプロダクトを作り出す。
- ・活動の前期（4月～7月）は活動計画等の話し合いを中心に、後期（10月～12月）は前期の計画を基に実際に活動を実施する。チーム活動を通して得たものや活動内容についてチームワークを発揮し、まとめを行う。
- ・活動終了後は、成果発表会を行う。
- ・3年次のアセンブリⅢで「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」を身につけるためのチーム基盤型学習（Team-Based Learning）の基盤となる「チームワーク」を身につける。

<評価法>

全ての活動の出席および期限内での課題提出を以て評価の対象とする。

目標に対するルーブリック評価（30%）、振り返りレポートの提出（30%）、課題解決における知識を問うテスト（20%）、ピア評価（20%）により、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- 他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。学年全体で行われるオリエンテーション、ア셈ブリ講演会、発表会、活動報告会を含めて、全ての授業への出席を必須とする。欠席した場合は補講を受けなければならない。
- ア셈ブリⅡは2年次で履修する教科であり、他学年では履修できない。
- 休講の決定及びその補講は別に定める。

※注意事項

防災士養成研修会の受講を修了していない場合、ア셈ブリⅡの単位が取得できない。

Ⅲ) ア셈ブリⅢ (Interprofessional Education Ⅲ)

3年次に行うア셈ブリ教育である。「コミュニケーション」、「チームワーク」を大切にして、「患者・(施設の)利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」・「職種の理解」を学ぶ。教育技法として、チーム基盤型学習 (TBL: Team-Based Learning) を採用する。

<ア셈ブリⅢで身につける力>

【基本姿勢】

- 他者を尊重 (リスペクト) できる。

「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方、職種の理解」

- 他職種を尊重し、職種間でコミュニケーションを取ることができる。
- 患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。
- チームで協力して課題に取り組み、改善・解決策を提案することができる。
- チーム全体の態度や言動について省察し、改善できる。
- 自職種の役割を他職種および医療・福祉系学部の学生に説明できる。
- 患者・利用者・家族・コミュニティに関わる他職種の役割を理解することができる。

<活動方法>

- 活動時間は年度初めに、日程等が提示される。また、詳しい内容については、学科別に行う事前説明会で説明する。
- 授業形態としては、対面授業によるチーム基盤型学習 (Team-Based Learning) を採用する。
- 学部・学科の異なる約6名の学生で混成チームを作る。
- 学部・学科の垣根を越えて、チームで「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」を学ぶ。
- 事前説明会で配布する資料を十分に予習して、授業に臨む。配布資料には、「他職種」の紹介も含まれる。「他職種」についての理解が乏しいと「他学科」の学生との話し合いがうまくいかない。
- 1日目の授業は、事前学習資料の理解度を確認する小テストである i R A T (個人としての準備確認テスト) を行う。その後、同じ問題をチームで話し合って解答する t R A T (チームとしての準備確認テスト) を行う。t R A Tにより、個人が事前学習を行うことによるチームへの貢献度が明らかになる。その後、チームで応用課題に取り組む。
- 2日目の授業は、引き続き応用課題を行なった後に、次回の授業に備えて予習の役割分担を行う。
- 3日目の授業は、応用課題を行った後に、同僚学生による評価(ピア評価)を行う。
- 4日目の授業は、各学科で振り返りを行う。

- ・アセンブリⅣで実践する**多職種連携（協働）**の基盤となる「**患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方**」、保健・医療・福祉における「**職種の理解**」を身につける。

<評価法>

全ての活動の出席および課題提出を以て評価の対象とする。

確認テスト、応用課題の成果物、ピア評価による TBL における評価（80%）、そして目標に対するルーブリック評価（20%）より、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を 100 点満点で出題し、再試験の評価を 79 点未満に換算する。

[注意事項]

- ・他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。学科別で行われる事前のオリエンテーションと 4 日目の振り返り、他学科と合同で行われるチーム基盤型学習の 3 日間における全ての授業への出席を必須とする。
- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、特別な事情がある場合を除いて遅刻や早退なく、すべての授業に出席することを修了の条件とする。
- ・欠席がある場合は、課題を課すことにより評価の対象とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

Ⅳ) アセンブリⅣ (Interprofessional Education Ⅳ)

4 年次（医学部は 6 年次）に行うアセンブリ教育である。アセンブリⅠ～Ⅲで身につけた「コミュニケーション」、「チームワーク」、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心の考え方」、「職種の理解」を活かして、保健・医療・福祉の現場における「多職種連携（協働）」を学ぶ。

<アセンブリⅣで身につける力>

【基本姿勢】

- ・他者を尊重（リスペクト）できる。

「多職種連携（協働）の実践」

- ・保健・医療・福祉の現場（以下、現場）において、患者・利用者・家族・コミュニティの課題に焦点を当て、共通の目標を設定できる。
- ・現場において、他職種の役割を理解することができる。
- ・現場において、多職種との関係性の中で自職種の役割を果たすことができる。
- ・現場において、協働する職種間で信頼関係を構築することができる。
- ・現場において、職種間のコミュニケーションを取り、チームワークを発揮できる。
- ・現場において、他の医療・福祉系学部の学生と共に学び、省察することができる。

<活動方法>

- ・異なる学科の学生がチームを作り、主体的に企画・運営に参画し、活動する。
- ・保健・医療・福祉の現場における多職種連携（協働）に参加する。
- ・課題を抽出し、改善・解決策を考える。
- ・学修した内容を他者と共有し、意見交換を行う。
- ・アセンブリ教育における出来事を省察し、今後の多職種連携（協働）に活かす。
- ・活動は下記の通り進める。

1) オリエンテーション：90 分を 1 コマ

2) チーム活動（必要時）：90 分を 1 コマ以上（※）

3) 現地活動及びプロダクト作成：90 分を 7 コマ（※）

4) 発表会：90分を3コマ

※2)と3)を合計して8コマ以上となるように、柔軟に運用する。

<評価法>

原則全ての活動の出席および課題提出を以て評価の対象とする。

リフレクションシートの評価(50%)、全体発表のプロダクト評価(40%)、ピア評価(10%)

より、総合的に評価する。

再試験は到達目標に示した内容を問う問題を100点満点で出題し、再試験の評価を79点未満に換算する。

[注意事項]

- ・他学科混成チームでの学修を行うので、演習であるが、全ての授業に出席しなければならない。オリエンテーションと現地活動、3日間の全体活動における全ての授業への出席を必須とするが、学部の事情、自身の就職活動により、やむを得ずに欠席・遅刻・早退する場合には補講等にて対応する。
- ・欠席するとチームとしての活動ができないため、やむを得ない場合を除いて遅刻や早退なく、すべての活動に出席することを修了の条件とする。
- ・欠席がある場合は、課題を課すことにより評価の対象とする。
- ・休講の決定及びその補講は別に定める。

V) アセンブリ防災 (Interprofessional Education disaster prevention)

アセンブリ防災では、大規模災害発生時に求められる多職種連携と実践的対応力の習得を目的とし、発災直後の初期動作ための状況予測から避難所支援、コミュニティの再興に至るまでの基本的対応行動を学ぶ。アセンブリⅠ～Ⅲの一部を利用して、Ⅰ、Ⅱでは防災士養成研修会で学んだ知識をベースにTKB(トイレ・キッチン(食事)・ベッド)及びその関連技術に焦点を合わせ、Ⅲでは健康危機管理における多職種連携を学ぶ。

<アセンブリ防災で身につける力>

【基本姿勢】

想定状況を基に必要な情報を推定し、災害時における意思決定および対応行動を検討する演習を行い、不確実な状況下でも適切に判断・行動できる思考プロセスの習得を目指す。また、避難所運営に関する基礎知識を理解し、被災者の健康を維持するために最低限必要とされるTKBの知識と、避難所の環境整備に関わる関連技術を理解することを目的とするとともに、健康危機管理上の保健医療福祉連携の必要性や効果について学ぶ。

<活動方法>

1) アセンブリ防災Ⅰ

① 大規模災害の発生を想定した机上訓練

災害発生時に「どのように対応すべきか」を事前に確認することを目的とする。緊急事態発生時の具体的な行動をシミュレーションすることで災害対応力を高めるとともに、各自の役割と責任を明確にし、防災意識の向上を図る。

② T(トイレ)

避難所ではトイレ環境の悪化が大きな問題となる。排泄物の適切な処理が行われない場合、不快感のみならず、感染症の発生や排泄を控えることによる脱水、さらにはエコノミークラス症候群などの健康障害につながる。快適で衛生的なトイレ環境を整えるため、個人用および多人数用トイレの組み立てと使用方法を学ぶ。

③ B (ベッド)

継続的な避難所生活において、窮屈な環境によるエコノミークラス症候群の防止や暑さ、あるいは寒さの緩和を目的に、簡易ベッドとしての段ボールベッドを作製する技術を身につける。

2) アセンブリ防災Ⅱ

① K (キッチン：食事)

避難者に暖かな食事を提供するため、防災食の主な種類と特徴、さらに選定のポイントについても学ぶ。防災食の備蓄（必要量）や管理の効率化を学ぶとともに、実際の調理も実施する。

② トリアージ・患者搬送

医療職では、発災直後に多数の患者が同時に運び込まれ傷病者の緊急度や重症度に応じた適切な処置や搬送を行う必要があるこの優先度にかかわる知識を学び、患者搬送の演習も行う。

③ 防災グッズ

身近な日用品を活用して簡易防災用品を作製する演習を行う。震災時の物資不足を想定し、代替手段の検討と実践を通して、応急対応力および防災意識の向上を図る。

3) アセンブリ防災Ⅲ

被災者に対する保健医療福祉支援

災害時の保健医療福祉の目的は、災害発生前の生活を維持し、それが困難な場合は平時の生活の回復を目指すことであり、そのためには、平時に関わらない多くの機関や職種との連携が求められる。ケーススタディの中でその必要性や効果を学ぶ。

<実施方法>

災害時の状況予測能力を高めるとともに、限られた情報の中で優先すべき対応を迅速に選択できる実践的判断力の習得を目指す。また、避難所で使用されるTKB関連物品を用いた少人数グループでの実技・体験を通して、避難所運営に役立つ知識および技術を修得する。

1) アセンブリ防災Ⅰ

① 机上訓練を活用したグループ協働によるシミュレーションを通じて、多様な視点を踏まえ、発災時に生じる状況への対応を検討する。

② T (トイレ)

簡易トイレの組み立てを行い、模擬排泄物を利用して凝固剤を用いた使用方法とその処理方法を体験する。多人数用トイレとしてマンホールトイレの組み立てや使用方法、構造についても学ぶ。

③ B (ベッド)

避難所で使用される簡易ベッド（段ボールベッドなど）を実際に作成し使用方法や寝心地などを体験する。避難所運営・設計計画に重要なベッドに関する知識・技術を身につける。

2) アセンブリ防災Ⅱ

① K (キッチン：食事)

保存期間が長く水やお湯を注ぐだけで簡単に調理ができるα米を始め、避難所で食事として利用される防災食に関する理解を深め実際に調理、アレンジ方法を体験する。また、糖尿病などの生活習慣病を持つ被災者を想定して、糖質やカロリーをカットした非常食の調理も実施する。

② トリアージ

わが国のプレホスピタルで最も一般的な START 変法について、ゲーム形式で学ぶ。

③ 防災グッズ

ゴミ袋による防寒具、新聞紙スリッパ、紙コップ・皿などを作成し、身近な日用品を活用した簡易防災用品の作製を通して、災害時の生活対応力を養う演習を行う。

3) アセンブリ防災Ⅲ

被災者に対する保健医療福祉支援

南海トラフ巨大地震が発生した豊明市をモデルとしたケーススタディを通して、それぞれの職種でできること、他職種の力を借りる必要があることを検討する。

<評価法>

アセンブリ防災は、アセンブリⅠ～Ⅲの活動の中で行うため、評価はそれぞれの評価に含まれる。

[注意事項]

アセンブリⅠ～Ⅲの中で行われるアセンブリ防災を欠席した場合は、相当する補講または課題提出が求められる。